

No.	(1) 交付対象事業の名称	(2) 実績額 (単位：千円)	(3) 本事業における重要業績評価指標 (KPI) ※目標年月 (R2.3)			(4) 本事業終了結果			(5) 実績値を踏まえた事業の今後について		
			指標	指標値	単位	実績値	事業効果	事業担当課による評価	今後の方針	今後の方針の理由	
①	「南紀熊野ジオパーク」を拠点とした地域しごと創生-広域連携 (2団体)	3,838	1	南紀熊野ジオパークセンター来館者数 (平成30年 0千人)	50	千人	35	地方創生に効果があった	初年度の認知度不足もあり、来館者数は指標値には至らなかったが、センター開設の効果もあって、地域全体の来訪者数は増加傾向にある。	事業の継続	今後、来館者増につなげるため、各種媒体を活用したPRを行うとともに、センター内の展示更新を行い来館者の誘客を促進していく。
			2	ガイド派遣依頼に基づくガイド案内者数 (平成30年 853人)	1003	人	694	地方創生に効果があった	ガイド派遣件数は、H30 (基準年) : 39件からR1 : 56件に増加しているが、少人数のグループが増えたため、案内者数は減少している。	事業の継続	ガイド案内者増につなげるため、教育機関や旅行会社へのPRを行うとともに、インターネット上での積極的な情報発信の取り組みを行っていく。
			3	串本町内周遊バスの利用者数 (平成30年 0人)	4000	人	868	地方創生に効果があった	初年度の認知度不足もあり、利用者数は指標値に至らなかったが、7月の運行開始後、11月には乗客276人と増加傾向にある。さらに1月からJRとのタイアップ広告を京阪神の車両や主要駅で掲出し、春に向けたPR強化を行った。	事業内容の見直し (改善)	くしもと観光周遊バスの利便性や魅力をさらに向上させるため、運行ダイヤの改正や紀伊大島の景勝地である「海金剛」を停留所として追加していく。
			4	「南紀熊野ジオパーク」エリアに宿泊する外国人宿泊者数 (平成30年 201千人)	232	千人	166	地方創生に効果があった	東アジア市場で人気のある白浜町及び熊野古道地域として人気のある新宮市で好調に宿泊客数を伸ばしたが、エリア内の観光地では、那智勝浦町で大型宿泊施設の耐震工事の影響や団体ツアーの減少により、宿泊客数は大幅に減少した。	事業内容の見直し (改善)	日本及び各国の新型コロナウイルスの収束状況の把握に努めつつ、世界的メディアと共同キャンペーンや海外プロモーションにより誘客を進めていく。また、世界的な個人旅行化に対応すべく、インセンティブ旅行者の誘致等に力を入れるとともに、海外における南紀熊野ジオパークの知名度向上に努めていく。